◆令和3年度市政懇談会 意見交換内容◆

～ 各会場で発言のあった参加者の皆様からのご意見・ご質問と
その場での市長のコメントの一部を抜粋しご紹介いたします ～

	参加者からのご意見	市長の答弁概略
4月5日 山内会場	防災無線が廃止となるが、FMの電波が弱い地域がある。	不感地帯の調査を実施中。また、家屋にアンテナを引く際の助成金を検討中。
	大型施設の前に過疎対策を。	旧8市町村の枠にとらわれず、全市一体で楽しみの場を創出したい。
	旧大沢小学校の廃校跡地が危険。	危険という認識はある。現況調査とともに危険防止のため対策を検討する。
	公共温泉施設について	
	・責任はだれにあると考えているか。	責任はあくまで自分にある。
	・譲渡はだれが決めたのか。	横手市の将来のため、私が決めた。
	・説明会が一回しか行われていない。	説明の丁寧さに欠けた。ただただ申し訳ない。
	・民間譲渡方針についても市民に相談するべきだった。	丁寧に相談すべきだったという指摘は受け止める。
	・鶴ヶ池は山内だけのものではない。横手市のために残すという考えをもってほしい。	温泉をもつところではどこも同じ思いである。特例で1つだけ残すということは難しいためご理解頂きたい。
山内中跡地を有効活用してほしい。	廃校の有効活用はどの学校においても考えている。企業誘致の箱として紹介したこともある。ご意見として頂戴する。	
4月7日 増田会場	豪雪にはよく対応していただき感謝する。	
	新品種「あきたこまちR」のPR方法や県や国のコメの政策に疑問がある。市長から何かの機会に要望してもらいたい。	私自身も米農家の当事者としてしっかり注意しながら、機会を見て要望していく。
	雪のPRを県外で行ってみては。	県外に赴いた際は、雪を横手の文化としてPRしていく。
	市民自身が市内を観光で回ってもらいたい。	コロナ禍のため、市民・県民が近場を観光する流れができていない。市民に当市の良さを知って頂くとともに、広域連携にも取り組んでいく。
	温泉の民間譲渡はインバウンド重点での失敗を活かしてほしい。	コロナ禍もありインバウンド戦略は難しい。
	温泉民間譲渡は悪いことではないが、市民への説明が不足していた。	丁寧に説明すべきであったと猛省している。
4月12日 平鹿会場	市の財政は問題ないとのことだが、アリーナ構想はどうなるのか。	有利な財源が確保できるうちに提案していく。
	アリーナは他市からも呼び込めるようないいものを作ってもらいたい。	防災機能はじめ様々な機能を付加させることで、有利な財源を引き寄せていく。
	農業の高齢化が進んでいる。国や県の補助は高齢の従事者にマッチしていない部分があるため、きめ細かい補助について、JAと一体となり訴えてほしい。	横手のスケールメリットを活かし、県や農水省等に訴えていく。国や県で賅えない部分については、市でもきめ細かい補助を行っているため、ぜひご活用頂きたい。
	下水道の整備をしてほしい。	状況を調査する。結果：地域住民の皆様からの聞き取りを行ったが多くの家庭で合併浄化槽を整備されており下水道に転換するのは難しい状況となっている。

4月13日 大森会場	さくら荘は引き続き市で運営してほしい。	地域の憩いの場として存続させたいという思いはある。民間譲渡について引き続き模索していく。
	消防団員の減少対策を。	課題として重く受け止めて検討する。
	雪害支援をもっと手厚くしてほしい。	粘り強く、きめ細かく支援していく。
	中山間地域の耕作放棄地について、JAと連携して対応してほしい。	農業の多様性を認めながら、様々な手立てを講じていく。
	地域の水路が壊れている。	市長指示・担当部署の対応を行う。結果・現状を詳しく聞き取りを行った。現在、対応の検討に入っている。
	今後も小学校の統合があるのか。	現在新たな統合校の検討はしていないが、将来さらに人口減少が進むと検討に入る可能性はある。
	安心安全な避難所の整備をしてほしい。	最低限度の暮らしやすさを念頭に整備する。
4月14日 雄物川会場	児童生徒が県外から戻ってくるよう学校教育の中で教えていくことが必要。	学校教育はもちろん、外で頑張った方が戻ってくる土壌づくりに取り組んでいく。
4月19日 十文字会場	登下校の子どもが心配のため、高学年もスクールバスを利用させてはどうか。	心配は尽きないと思うが、なんとか地域で見守っていただきたい。
	要介護者や障がい者など、外出が難しい方のワクチン接種はどうなるか。	かかりつけ医や訪問診療医との相談となる。
	ワクチン接種がどう進むのかわからず、心配がある。	市報やチラシなどを通じて、分かりやすい広報に努める。
	住民どうしの共助が重要。市でも側面支援をしてもらいたい。	行政が黒子となって、地域主体的の活動を応援していくという体制が理想。実現のため取り組んでいく。
	大雪による市民の収入減により、市税の税収も少なくなるのではないかと心配している。これによる増税はあるのか。	増税は考えていない。
	横手には人を呼ぶ施設がない。大型公共施設を作るのであれば、訴求力のある施設を作ってもらいたい。	わざわざ遠くからお越し頂く価値のあるような、集客力のある施設を意識して取り組んでいく。
	豪雪で家が傷んだが、補助金がない。	ただ現状復旧するのではなく、次の豪雪では壊れないような、強靱化のための改修をしてもらいたい。改良復旧（リフォーム）への補助金はある。うまく活用してもらいたい。
4月20日 大雄会場	災害の歴史を参考に、FMの電波の不感地帯の解消をしてはどうか。防災の日に一斉に調査してみてもどうか。	歴史を学ぶことは重要と考える。参考にさせていただく。
	横手インターを降りずにふるさと村に入場できるようにしてみてもどうか。	本来であればインターを降りて市内を散策してもらいたいの私の考えだ。素晴らしいアイデアだがなかなかハードルも高そうだ。
	共助組織は平野部でも必要。結成に向けて行政でもバックアップをしてもらいたい。	先進事例の取り組み等を紹介しながら働きかけていく。
	家の改修の補助金を使う際は市内の業者に改修してもらわなければならない。市外の業者でも使えるようにならないか。	できるだけ市内の業者に循環させたいという意図があるため、ご理解頂きたい。
	図書館のストーブが壊れている。	管理不行き届きがないよう設備管理していく。
	道路交通法改正に伴う農業に必要な免許の取得費用について、市で助成をもらいたい。	状況を調べる。結果：市とJAとで、法改正や免許取得等のアナウンス・啓発を行ってきた。多くの方が免許取得の様様。今後も啓発を継続していく。
	農家ではない方にも農業被害の補助金が出ているようだ。	公平公正の部分から考えるとつらい部分はあるが、今回は災害級の豪雪であり「農業の再起を図る」「産業の復旧・復興」という市の政策がある。ご理解頂きたい。
	農業研修者には、農業の難しい・厳しい部分を含めてしっかり情報提供した上で、市の支援を通じた成功体験を与えることが重要だ。	覚悟や厳しさも伝えていきたい。研修者の状況は様々であるため、一律の支援で同じ結果を求めることは難しい。実態を踏まえた支援をしていきたい。

4月22日 さかえ館	市の財政については、楽観視せず国の動きも注視してもらいたい。	ご指摘のとおりしっかり警戒していく。
	雪解け後の被害にも目を光らせ支援してほしい。	引き続き努力する。
	共助には地域のつながりが必要。地域包括ケアシステムは横手版でどのようにすれば機能するのか、有事に備え、平時から検証しておかなければならない。	システムがどのようにすれば上手く機能するかは、各地域の事情もあり難しい課題。システムの広がりや、日頃から地域住民が関わりあう雰囲気醸成に向け努力していきたい。
4月27日 金沢孔城館	アリーナ構想はぜひ実現してほしい。	
	金沢地区の歴史的風致維持向上計画の中での位置づけと今後について。	計画では、金沢地区は無くてはならない存在だと認識している。今後もブランド力を前面に売り出していく。
	大河ドラマを誘致してはどうか。	大河ドラマほかCM誘致など、虎視眈々とチャンスを狙いながら営業していきたい。
	豪雪被害の補助金はきめ細やかにお願いしたい。	復興に繋がるようしっかり取り組む。
4月30日 かまくら館	横手駅に駅ピアノを設置してはどうか。	検討している。しかしコロナ禍のため進めることができていない。他にもピアノ寄贈の話がありコロナ禍の状況改善を待つ。
	県外から進学してくる高校生はいるのか。	現在はいないと記憶している。若い世代に来て頂ける横手市をつくってきたい。